

## 森山記念病院における抗菌薬適正使用支援活動成果

- 微生物検査室をもたない施設の血液培養指標 -

◎石井 孟<sup>1)</sup>、寺本 亜紀子<sup>2)</sup>、内田 岳<sup>3)</sup>、豊島 拓朗<sup>4)</sup>、羽田 朋人<sup>2)</sup>  
医療法人社団森山医会 森山記念病院 検査科<sup>1)</sup>、同 内科<sup>2)</sup>、同 薬剤部<sup>3)</sup>、同 看護部<sup>4)</sup>

【序文】当院では 2021 年 4 月より抗菌薬適正使用支援チーム (Antimicrobial Stewardship Team : AST) を組織し、週 1 回のカルテ記載による診療支援を行っている。今回我々は微生物検査室をもたない施設として、AST 活動による効果を調査した。

【方法】調査期間：2021 年を移行時期とし、2019 年 1 月～2020 年 9 月を AST 活動前、2022 年 1 月～2023 年 9 月を AST 活動前とした。調査項目：調査期間内に提出された血液培養検体の属性を収集した。また血液培養指標として、採取数 (1,000 patient-days, 新入院 1,000 人あたり)、複数セット採取率、陽性率、汚染率、分離菌種内訳を収集した。

【結果】血液培養検体の属性は (AST 活動前、後の順に) 検体提出患者数：984, 1614, 男性 (%)：571 (58.0), 952 (59.0), 年齢中央値 (最小 - 最大)：79 (16 - 102), 79 (14 - 106), 65 歳以上 (%)：800 (81.3), 1275 (79.0) であった。血液培養指標は 1,000 patient-days：10.5, 17.9, 新入院 1,000 人あたり：194.6, 312.1, 複数セ

ット採取率：86.7%, 91.5%, 陽性率：22.3%, 22.6%, 汚染率：4.7%, 3.4%であった。分離菌種内訳は頻度の高い順に AST 活動前 (n=408) では Coagulase-negative staphylococci (CNS) 29.4%, *Escherichia coli* 20.1%, *Klebsiella* spp. 9.3%であり、AST 活動後 (n=754) では *E. coli* 22.5%, CNS 19.9%, *Klebsiella* spp. 9.8%であった。

【考察】血液培養指標のうち採取数と複数セット採取率の向上を認めたが、陽性率に変化を認めなかった。汚染率が若干低下したが、複数セット採取率向上に伴うものと考えられる。しかし陽性率、汚染率ともに未だ高い値を示しており、採取数の向上は十分でないと考えられる。J-SIPHE (感染対策連携共通プラットフォーム) 年報 2021 (2023 年 11 月時点) では 1,000 patient-days の中央値が 24.1 であり、当院は AST 活動後においても届いていない。今後は Diagnostic Stewardship の実践にも尽力し、さらなる指標向上に努めたい。

連絡先：03-5679-1211 (内線 3120)